

# 総合支所の組織体制維持を求める陳情2件を「採択」

9月定例会で継続審査となっていた「総合支所の組織再編にかかわる陳情」及び今期定例会に提出された「現体制の総合支所を存続させることの陳情」を所管する総務常任委員会に付託しそれぞれ審査を行いました。その後、本会議において委員会での審査結果について審議し採決を行った結果、いずれも賛成多数で「採択すべき」と決しました。

賛成 14  
反対 12

陳情第19号  
総合支所の組織再編にかかわる陳情

## 陳情の内容

市民に対する「組織再編」にかかわる説明会も実施しない状況で提案することは避けるべきで、地域自治区延長についての方針が定まらない状況で「組織再編」を進めるべきではありません。よって、当面の間は現在の総合支所の「5課+教育委員会支所」体制を変更することなく、現状の職員数を維持するよう陳情するものです。

## 陳情者

奥州市政を考える会世話人代表 鈴木秀悦（ひでゆき）  
付託委員会の結果

行財政改革の必要性は理解出来るものの、地域を思う住民の声を十分理解し、市全体の利益に向けた運営を目指すため、組織の再編には更に時間をかけるべきとの観点から、採択すべきものと決しました。

なお、現状にあった組織体制をつくり、急速に進む人口減少を見据えた対策をすべくであるとの観点から、不採択すべきとの意見がありました。

## 本会議での討論

**反対** 第二次行財政改革大綱でも本庁機能の充実と総合支所機能の抜本的な見直しを謳っており、それに対し議会も平成24年度予算議決にあたり、「スピード感をもって対応したい」と付帯意見まで付けて後押ししている。

**賛成** 市当局と議会が危機感を共有し、様々な難局に対応していくことこそ求められている。世論を二分しているような状態で議決をすれば、市民にも大きな問題として波及していくと考える。一定の世論の終息をみるまで努力をお互いしながら結論を出すべきだ。  
**賛成** 一つの仕組みを変えて一体感を削ぐことがないように、今こそ皆で知恵を出し合って協力・協調していくことが大切である。

賛成 14  
反対 12

陳情第22号  
現体制の総合支所を存続させることの陳情

## 陳情の内容

市財政の現状や将来の見通し、そのための行財政改革の必要性については、市民誰しもが承知していますが、市民が「丸」となり、その困難な道に立ち向かうためにこそ、それぞれが住む地域の足元をしつかり地固めしておく必要があります。

よって、「まちづくりの基本姿勢」に立ち返り、仕切り直しの気持ちで「支え合う一体感あるまちづくり」を進めることが市の発展の歴史を早めることになるため、現体制の「5課+教育委員会支所」体制の総合支所を存続するよう陳情するものです。

## 陳情者

江刺地区振興会長連絡協議会 会長 廣野（ひろの）雅喜（みやき）ほか2名  
付託委員会の結果

地域を支える支所の体制については、一定の議論と合意が必要であり、体制を再編するためには現時点で十分な議論がなされていないとの観点から、採択すべきものと決しました。

なお、将来の人口減少等を考え、本庁と支所の役割を明確に打ち出しながら組織の再編を進めることにより、今後の方向付けをすべくであるとの観点から、不採択すべきとの意見がありました。

## 本会議での討論

**反対** 奥州市を更に発展させるため、財政基盤を強くするためには、本庁方式で総合支所を縮小することは必要なことである。また、教育委員会は所管する事務事業が変わっており、その教育委員会支所の役割は果たしてしまっていると思う。

## 年頭のごあいさつ



新年おめでとうございます。市民の皆様には新たな気持ちで今年一年の目標を定めた事と思います。何よりも健康で、日々明るく暮らせる事をお祈り致します。

さて、議会では、昨年色々な事がありました。とり分け、万年の森の残土処理問題について、地方自治法に基づく百条委員会を設置致しました。既に太陽光発電事業の工事は着手しておりますが、これまでの経過の中で事務執行が適性であったかどうか、もし不適性であったとすれば、

どうすれば再発防止ができるのか調査する事を目的としたものであります。それは、執行機関と議会の役割分担を定め独立して対等な立場から相互に牽制、抑制するとともに、均衡と調和を保つための制度であります。この特別委員会の先にあるものは執行当局と議会の信頼関係の構築であり、市政発展の礎となるものであります。

昨年暮れに「大地の侍」というタイトルで奥州市民劇の公演がありました。水沢出身の吉川鉄之助の物語でした。3時間に及ぶ公演でしたが、時間の長さを感じない素晴らしい内容でした。関わった市民の皆様には敬意と感謝を申し上げます。

鉄之助の言葉に「神は私達に乗り越えられない試練は与えない」という場面がありました。北海道長沼の開拓で行き詰まった時、この言葉に支えられたという事です。我々も多くの課題を抱えておりますが、皆で乗り越えましょう。

奥州市議会 議長 佐藤 修 孝